着衣着火防止のポイント

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう。
- こんろのまわりに物を置かないようにしましょう。こんろのまわりの物を取る時に、着衣に燃え移る事例が多数発生しています。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書をよく読んで正しく使いましょう。

防炎品を使いましょう！

火が接しても着火しにくい防炎品のエプロン・アームカバーを使い、調理中の着衣着火を予防しましょう。

（例）

このラベルが目印！

＊一人暮らしのお年寄りへのプレゼントにもおススメです！！

もし着衣に火が着いてしまったら…

脱ぐ、たたく、水をかけるなどして早急に消火し、
１１９番通報を行いましょう！！

令和２年１０月発行

STOP！住宅防火シリーズ ①　　火災から命を守ろう

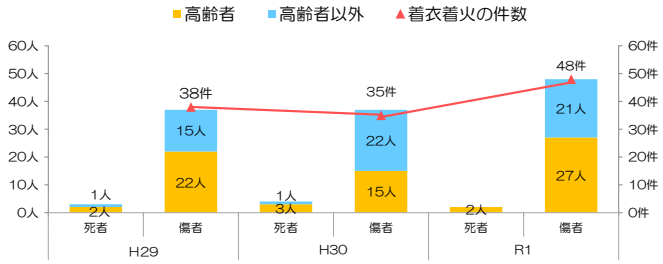
STOP！着衣着火

東京消防庁

着衣着火による高齢者の死者が多発！

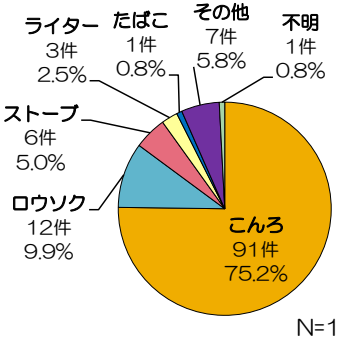
着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。令和元年の死傷者が発生した着衣着火による火災件数は４８件となり、前年と比較すると１３件増加しています。

また、令和元年の着衣着火による死者数は２人となり、前年と比較すると２人減少しています。



死傷者が発生した着衣着火件数・死者数・傷者数
（H29～R1住宅内　自損は除く）

着衣着火件数のうち、こんろを出火原因とする火災は約７割以上を占めています。



N=121

出火原因別着衣着火件数
（H29～R1住宅内　自損は除く）

こんろによる火災の事例は、
次ページをご覧ください。

こんろによる着衣着火

過去３年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します。（H29～R1住宅内、全９１件、死者５人、傷者９１人）

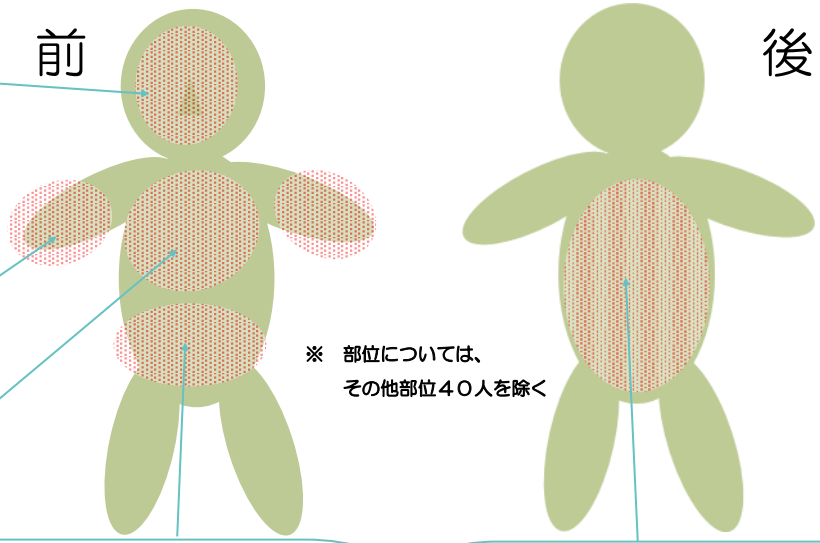
顔（３人）

女性６０代は、自宅の台所で調理をしていた際に、首に巻いたスカーフがこんろの火に接触して、着火し、受傷した（重篤）。

手、腕（２８人）

① 女性８０代は、こんろで調理をしていた際に、調理台の奥に調味料を戻そうとして、手を伸ばしたところ着衣に着火し、受傷した（軽症）。

② 女性７０代は、ヤカンでお湯を沸かしていた際に、パジャマの袖がこんろの火に接触して、着火し、受傷した（中等症）。



※ 部位については、その他部位４０人を除く

胸部（８人）

男性８０代は、調理中にこんろの左側に置いてある調味料を取るため、手を伸ばした際に、着衣に着火し、受傷した（軽症）。

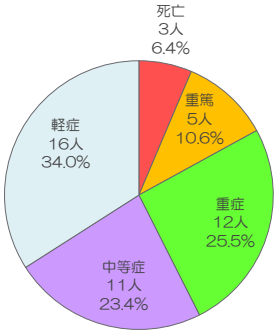
腹部（４人）

女性２０代は、調理を始めたところ、こんろに近づき過ぎてしまい、着衣に着火し、受傷した（中等症）。

背部（１３人）

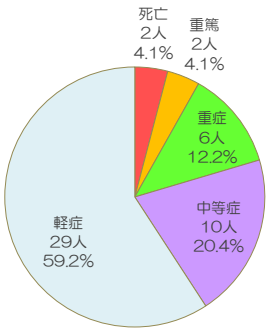
女性４０代は、調理中に、冷蔵庫を開けるために、こんろに背を向けた際に、着衣に着火し、受傷した（軽症）。

高齢者は素早い消火ができず、重症化してしまう場合が多くあります。



n＝47

受傷程度別死傷者数（65歳以上）

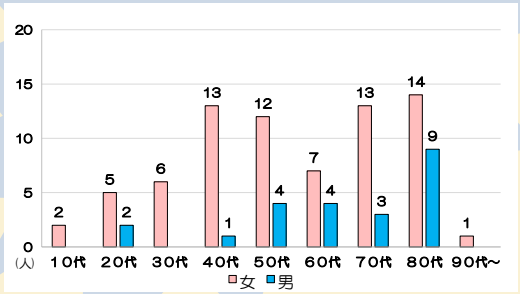


n＝49

受傷程度別死傷者数（65歳未満）

こんろによる着衣着火の死傷者は、女性は男性の３倍以上です。また、年齢では、８０代が最も多く、40代から80代の間で多く発生しています。

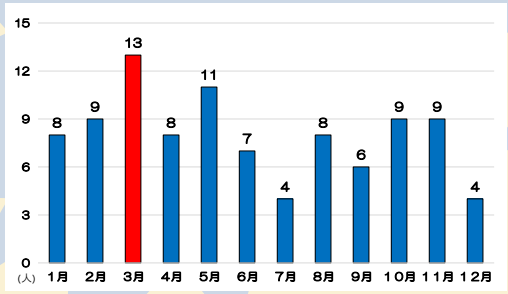
女性に多い



【性別・年齢】

こんろによる着衣着火は、年間を通して発生しており、特に３月に多く発生しています。

生活・服装の変化



【発生月】

着衣着火防止のポイントは裏面をチェック！